

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成27年3月12日 (2015.3.12)

【公表番号】特表2014-511586(P2014-511586A)

【公表日】平成26年5月15日 (2014.5.15)

【年通号数】公開・登録公報2014-025

【出願番号】特願2013-551296(P2013-551296)

【国際特許分類】

H 0 4 N 19/00 (2014.01)

【 F I 】

H 0 4 N 7/13 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月22日 (2015.1.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

入力ビデオストリームを受信し、入力ビデオストリームの実体を少なくともほぼ復元するためのデコーダでデコーディングされ得るところのエンコーディングされたビデオストリームを出力するエンコーダであって、

人間の目によって認識され得るのと類似の色の範囲または色の差において前記入力ビデオストリームの色スペクトル解像度を低減するエンコーディングロジックを備えた、エンコーダ。

【請求項 2】

マッピング関数を受信するためのインプットをさらに備え、

前記マッピング関数は、複数のカラー値からのカラー値を、1組のコアカラー値からの関連したコアカラー値へとマッピングし、人間視覚システムモデルは、カラー値と、関連したコアカラー値との差を認識することができず、

前記エンコーディングロジックは、前記入力ビデオストリームの各フレームにおける各マクロブロックのカラー値を認識し、前記マクロブロックのカラー値が前記1組のコアカラー値内であるかどうかを決定し、前記カラー値が前記1組のコアカラー値内に無ければ、マクロブロックのカラー値を前記マッピング関数に基づいて関連したコアカラー値に置き換える、請求項1に記載のエンコーダ。

【請求項 3】

入力ビデオストリームを、入力ビデオストリームの実体を少なくともほぼ復元するためのデコーダでデコーディングされ得るところのエンコーディングされたビデオストリームへとエンコーディングするためのコンピュータに実装された方法であって、

該方法は、前記入力ビデオストリームの色スペクトル解像度を、人間の目で識別可能なものと類似の色または色差の範囲まで低減することを備えた、方法。

【請求項 4】

前記低減するステップが、

(a) マッピング関数を受信し、ここにおいて、前記マッピング関数は、複数のカラー値からのカラー値を、1組のコアカラーからの関連したコアカラー値へとマッピングし、人間視覚システムモデルは、前記カラー値と前記関連したコアカラー値との間で認識できないこと、

(b) 前記入力ビデオストリームのフレームにおけるマクロブロックのカラー値を識別すること、

(c) 前記マクロブロックの前記カラー値が前記 1 組のコアカラー値内であるかどうかを決定すること、

(d) 前記カラー値が前記 1 組のコアカラー値内に無ければ、前記マッピング関数に基づいて前記マクロブロックの前記カラー値に関連したコアカラー値と置き換えること、

(e) 前記入力ビデオストリームの各フレームにおける各マクロブロックのためにステップ (b) ～ (d) を繰り返すこと

を備えた、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記 1 組のコアカラー値が、C I E の X Y Z 色空間のサブスペースに相当する、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記マクロブロックの前記カラー値が、前記マクロブロック内のピクセルのカラー値を平均することによって識別される、請求項 4 または 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記マクロブロックの前記カラー値が、前記マクロブロック内のピクセルが同じカラー値を有するように置き換えられる、請求項 4 ～ 6 のいずれか に記載の方法。

【請求項 8】

前記マクロブロックの寸法が、16 ピクセル × 16 ピクセルである、請求項 4 ～ 7 のいずれか に記載の方法。

【請求項 9】

前記マクロブロックの寸法が、1 ピクセル × 1 ピクセルである、請求項 4 ～ 8 のいずれか に記載の方法。

【請求項 10】

前記 1 組のコアカラー値が、青に近い色よりも赤に近い色を 多く含有する、請求項 4 ～ 9 のいずれか に記載の方法。